

東部日本語ボランティアネットワーク 第36回定例会議事録

2025年7月5日（土）三島本町タワー14:00～16:00

出席者（7名）：香川、石井、久木野、虎谷、山口、高澤、相田

事前/事後資料提出者（3名）：西村、望月、佐野由美子

○情報共有

望月（FAIR） 事前メール

FAIR 富士宮国際交流の日本語支援委員会として活動

①学校支援(親が外国出身の子どもたち)

市内7校（中学校2，小学校5）の外国人生徒15名への日本語支援

委員10名が生徒1、2人を担当、週一か二回授業に入る、あるいは取り出して日本語支援

②高校生以上の日本語初心者の外国人を対象に日本語クラスを開講

年3期（1期5，6，7月 9回、2期9，10，11月 10回、3期1，2，3月 10回）

現在生徒数7名 カナダ3名、インドネシア2名、スリランカ2名）委員5名で担当

西村（GGA 他） 事前メール

今年度も、私は

- ・長泉町日本語教室コーディネーター
- ・静岡県地域日本語教育コーディネーター

を務めております。

また、

- ・三島市日本語学習支援者初級講座
- ・にほんごDOJO in みしま（日本語教室）

などに関わり、気持ちは地域日本語教育寄りにシフトしています。

本業の日本語学校でも、留学生ではない学習者がいます。

このところ、プライベートレッスンで日本語を学びたいという様々な方からのお問い合わせが週に一度はきています。

お仕事をしている人はもちろん、サッカー選手、サッカーコーチ、夏休みでホームステイしている少年、長く日本に住んでいるけど読み書き出ず恥ずかしいから学びたいという人、そして年少者…。

若い学習者について言えば、ふじのくに中学校との連携も模索しつつあります。

このように、今年度に入って、本当に切実に日本語を学びたいという人が増えてきたことを実感し、どうしていくのがよいか考えさせられている毎日です。

【学習会開催結果】

学習日	学習者	学習支援 ボランティア	見学、付き添い、 同伴の子供等	参加者	その他
4月20日	9名	8名	3名	20名	2部屋
4月27日	6名	7名	4名	17名	2部屋
5月11日	6名	6名	2名	14名	
5月25日	5名	7名	4名	16名	2部屋
6月1日	5名	7名	2名	14名	2部屋

会場；三島市中郷文化プラザ。

学習者はベトナム人が最も多数で、中国人、インドネシア人も通っている。

【学習会のコメント】

＊2024年三島市主催の日本語学習支援者講習会に参加していた三島市在住の2名がボランティア活動に継続的に参加することになった。ボランティアは現在14名の登録があり、各会とも学習者は5名から10名の参加があるので会の運営は指導者数では余裕があり、ひとりの学習者を2名のボランティアで支援する対応も取り入れている。

＊2部屋での学習会が定着してきたが、2部屋に分かれたため学習者同士の交流機会がなくなったと感じていた。そこで、1時から5時までの長時間学習の合間の休憩時間を使って、初参加の学習者やボランティアの自己紹介をし、日本の歳時記や習慣などをやさしい日本語で紹介して。時には折り紙体験、各国の早口言葉などで学習者同士の交流や気分転換を図っている。

＊三島市のY社の学習者2名（日本語能力はN3レベル）は業務に必要な品質管理に関心が高い。引率の雇用主からの要望もあり、実務で要求される品質管理の学習をしながら日本語も学べる学習内容を試行している。

【その他の活動】

＊日本大学のKF氏（国際関係学部 国際総合政策学科教授）から在住外国人の生活の意識、学習環境等の調査への協力依頼があり、4月27日に出席していた学習者への個別インタビューが行われた。あいうえおの会からは、ボランティア活動に参加する大学生の募集チラシの配布をお願いしたところ、次回の会に数名の大学生が見学で訪れる。

＊三島市国際交流室の主催で6月29日に在住外国人のための「防災施設見学と体験」ツアーが開催され、会から5名が参加した。東京消防庁本所防災館で災害（地震、暴風雨、水害）を体験した。

にほん語かいわ会は

4月から伊豆市の会社、伊豆の国市在住のインドネシア人2名、函南在住カナダ人1名、スイス人メキシコ人ご夫妻、メキシコ人(夫ニュージーランド人の仕事で伊豆の国市在住)の新規と既存のコロンビア、フィリピン、ベトナム、インド、中国、台湾、ネパール、アメリカ、シンガポールなど多国籍(技能実習、特定技能、技人国、エンジニア、家族ビザ、配偶者ビザなど)、ボランティア含む計20名前後でニーズに合わせた対面形式にて毎週木曜19:00-21:00に教室活動を継続中。7月N3.4受験者、特定1から2への受験者、大型、普通自動車免許、年金受給、就活、学習以外も出来る範囲で支援。

最近は参加者が20時過ぎに集まる事が多く、学習時間が短いのが悩みです。退勤後に食事をしている様子あり。また、会場に大型印刷導入、1テーブル(6人)減で狭くなった。

伊豆の国市より市内在住外国人対象防災イベント7月27日日曜日時代劇場に参加してほしいと、説明会を兼ねて6月12日に視察があった。

イベント

LINK開催苺狩りに5月25日参加、また毎年恒例の森嶋農園で梅狩りとポトラックスタイルの昼食会を開催。参加外国人12名、ボランティア他、大成功で次回からもポトラックで行いたいと担当ボランティアより。2024年6月から毎月開催の世界の料理ランチは、2025年度は4月より、第二水曜日の伊豆学研究会認知症カフェと抱き合わせで行っている。4月中国、5月ボリビア、6月南インド料理が終わり、7月9日インドネシア、8月13日フィリピン料理開催予定。8月は大仁夏祭りあり、アメリカ人ALTがタコス、インド人がスイーツを販売する予定。また、10月には大仁三福区から露店や、近隣在住外国人の主張弁論などの依頼があり検討中、警察からテロ対策?で、提出書類など多く来期に持ち越しになった。販売関連は経費含め売上より場所、駐車場、材料差引後本人へ渡す。

7月絵手紙、11月芋掘り、1月餅つき、他、日本語でカラオケ大会、遠足、母国紹介プレゼンなども企画中。地域に少しずつ根付いている様子みられる。

地域の方々に知ってもらい受け入れて頂くチャンスかと、どの案件も前向きに考えている。

教室以外行事のボランティアが少ない。

5月ランチ担当したボリビア人はこの後、天城のマリオットホテルでベッドメイキングや清掃の仕事を得た。

6月29日には三島市の防災関連のバス視察に3名参加。

昨年は学習者や他ボランティアさんに送迎させたり、英語を話さない学習者に横柄な態度だったり、要注意ボランティアさんに悩まされた。

半年程様子を見ましたが、3月いっぱいでご遠慮頂いた。地域の方だし、借りている場所にご迷惑をかける心配などで非常に難しいケースであった。

研修期間を設けて判断する事を見学時に伝えることにする。

今年度は県の補助金なしで少ない予算での活動になるが、変わらず楽しみながら実りある活動にしていきたい。

SOFA は、7/31 から姉妹都市フランクストンに訪問団を編成し 8/3 の向こうでの「ジャパニーズフェスティバル」に参加します。私は行かない予定でしたが人が集まらず行くことになりました。（しました）説明会が 7/5 でして、5 時頃には集合です。（準備もあり）すみませんが行けません、悪しからず。。

真夏から冬になるので・・・過去二回は春と秋でしたから、ダウンコートを持っていきます。

向こうでは市内の高校を全校貸切つてのビッグイベントで SOFA も日本文化の紹介、体験をします。準備も結構大変で行く前から疲れそう（すでに疲れています）！無事に帰ってくるのが最大の目標です。！！

裾野日本語教室は変わりなく、現在来ているのは、タイ、スリランカ、フランス、オーストラリア、スロバキア、スロベニア、ブルガリア、ベトナムです。6～8 人くらいでちょうどよいボリュームです。6 日は七夕イベントをやります。

石井（のびっこクラブみしま）

のびっこクラブ（土曜日）

- ・ボランティア：「三島市日本語学習支援者初級講座」修了者の入会など、人手不足は改善傾向あり。学生ボランティアは急減。小中高生の夏休みボランティア案内予定。
- ・学習者：昨年に引き続き、ダイレクト受験あり。東京の NPO 法人のオンラインを受講。
- ・高校 2 年生が、2024/12 の JLPT で N1 満点一発合格。伊豆日日新聞の 1 面トップ記事になった。

クラスぽよ（放課後）

- ・マルチメディアデイジーを活用

その他

- ・フレームワーク：3 月 3 日、市内 4 団体による要望書を三島市長へ提出。今回の主な要望は、①プレクラス実施②市民団体との連携強化。
- ・イベント：季節の行事以外では、3/1「首都圏中国帰国者支援・交流センター」から語り部さんが来訪し、平和について考えた。
- ・3/8 高校卒業生の体験発表会：「たくさんの資格試験に挑戦しました。」「いろいろな体験をしてください。総合入試に役立つから。」
- ・のびっこクラブみしま 15 周年記念講演会：「自著をかたる@三島」6/28 玉置太郎氏、7/12 高畑幸氏

虎谷（NICE、親子にほんごひろば、県教育委員会）

沼津

親子にほんごひろば

- ・学習者が定着しつつある。子どもも一定数来ている。
- ・今沢地区はラオス、スリランカの方が増えている。

沼津にほんご教室

- ・熱海市内の中学生が入会した。

熱海市内は外国人（特にネパール出身）が増え、日本語教室の受け入れが
いっぱい、沼津まで日本語の勉強に来た。

静岡県東部学校の状況

- ・東部全体で外国につながる子どもたちが増えてきている。

特に熱海市内では乳幼児の数が増え、幼児教育、義務教育とも現場の
意識が高まってきている。

- ・清水町の学校は外国につながる子どもたちの数も多く、小中とも
プレクラスで初期日本語の指導をしてから学校に編入している。
- ・母国で義務教育課程を終えた年齢超過生で、高校進学をしたい子ども
たちのサポート体制を考えていく必要がある。
- ・マルチメディアデージー教科書が外国につながる子どもたちも使いようにな
った。個人に合わせたふりがな機能や音声読み上げ機能もあり、
母語が読める子どもは翻訳して教科書理解もできるので、皆さんも
機会があったら勧めてほしい。

相田（NICE 沼津にほんご教室）

・教室

学習者の数はやや増加傾向にあり、30 人近く来ることもあります。インドネシアやベトナム出身の方が多く、
最近では ALT の参加も見られます。

グループごとの在籍人数や進捗には偏りがあり、1 グループに 4 人以上集まることもよくあります。ボランテ
ィアの希望に応じて、2～3 人ずつに分担しながらヘルプ対応を行っています。

新人ボランティアが 3 人加わり、さらに 3 人が研修中です。一時期スタッフがかなり減っていたので、大変あ
りがたい状況です。

・その他活動

最近では、ミングリング（交流イベント）に力が入っている印象です。内容を練り、アイデアを出し合いながら
準備しています。

- ・研修チーム、運営チーム

研修チームでは現在、備品棚の整理を進めています。

また、新規入会者向けの案内資料については、これまで 10 カ国語の翻訳版を用意していましたが、新たにシンハラ語、ビルマ語ミャンマー語、ネパール語、やさしい日本語の 4 言語を追加しました。各資料は AI 翻訳の後、ネイティブチェックを経て仕上げています。

言語名の表記については、「ビルマ語」とするか「ミャンマー語」とするかで少し迷いました。最初に方針を決めたあとで「NICE ではビルマ語に統一してる」などと言われると無駄手間なので、一応 NICE と部会に確認しましたが、特に異論はなかったため、研修チームで判断し「ビルマ語ミャンマー語」という形にしました。

以上